

滋賀県における琵琶湖への愛着とスポーツの関わりに関する研究

～カヌーに着目して～

A study about the relationship between the attachment to Lake Biwa and sports
in Shiga-Focusing on a canoe-

1K06B115

指導教員 主査 原田宗彦先生

下坂 理想

副査 松岡宏高先生

【緒言】

滋賀県には、日本で一番大きな湖である琵琶湖がある。琵琶湖を中心に、数々の水上スポーツが盛んに行われている。私自身、高校生の時にカヌー競技と出会い、琵琶湖で青春を過ごしてきた。そして、カヌー競技を始めてから、私はいくつかの驚きと発見をした。カヌーを始めるまで、私はさほど琵琶湖に対して何も意識を持っていなかったが、カヌーを始めたことで琵琶湖に対する愛着が芽生え、環境問題に興味を持ち、普段の生活態度にも変化が現れた。滋賀県に住んでいながらも、琵琶湖に愛着を抱けないのはとても残念である。そして、愛着を抱く一つのきっかけとして、カヌーの普及があると考えた。

特に滋賀県はカヌー競技を行う上でとても恵まれた環境であり、普及させる意義が大きいと感じている。なぜならば、“琵琶湖”がある事で、比較的どこの地域でもカヌー競技を行える環境が整っているからである。また、他の多くのスポーツにおいても“精神論”は学べるが、“環境に関する教育的要素”を学べることはアウトドアスポーツの特徴である。スポーツを通して、琵琶湖に愛着を持ち、さらに環境問題に興味を抱き、行動に移せる滋賀県民を増やすためには、カヌーを普及させるべきではないか。私は、このような考えに至り、本研究で調査する旨に至った。

【研究方法】

本研究では、滋賀県における高校生にアンケート調査を行い、琵琶湖に対するイメージを知り、琵琶湖に関するアウトドアスポーツ（主にカヌー競技に特化して）の普及のメリットについて研究する。調査では、愛着の有無、保全活動への参加などを問い、滋賀県民の現状と、向上の糸口を模索する。

【調査結果】

滋賀県の高中生における琵琶湖への愛着度はそれほど高いものではない。

アウトドアスポーツを通し、琵琶湖に触れる機会が多い人ほど、琵琶湖への愛着度が高い。

琵琶湖がきれいであれば、愛着はさらに増す。
琵琶湖をきれいにする意識を高めるための教育が必要である。

上記の一つのきっかけとして“カヌー”があげられる。

【結果と考察】

この結果により、琵琶湖を通して環境問題を積極的に考え、行動に移すきっかけを与える一つの手段として、カヌー競技が上げられるだろう。琵琶湖に愛着がわけば、環境問題だけではなく、滋賀県というアイデンティティーの創出にもつながる。世界におけるカヌー競技は幅広く、レクリエーションとして多様な種類のカヌーが楽しまれているため、そしてまた、琵琶湖な

ど川や湖が近くにない地域においても、水さえあればカヌー競技を楽しむ事が出来る。

比較的場所を問わずアウトドアスポーツを行えるカヌー競技。比較的、どこでも活動ができるが、滋賀県においては、他の地域よりも活動が行いやすい環境は整っている。普及が行いやすい環境にある滋賀県で、カヌー競技を普及させ、環境問題に関する意識を向上させる。そして、琵琶湖に愛着を持つきっかけを与える。そうすれば、環境について考えるだけでなく、“滋賀県”という地元で愛着を抱ける県民が増えると考えられる。